

タイトル	イリ地方の伝統的なウイグル族の民家の特徴について
著者	阿布力克木, 托合提; 买买提, 力提甫; 小野, 恭平
引用	北海学園大学学園論集, 124: 71-86
発行日	2005-06-25

イリ地方の伝統的なウイグル族の 民家の特徴について

阿布力克木 托合提
买买提 力提甫
小野 恭平

1. 序

イリ (I-li 伊犁) 地方は中国新疆ウイグル自治区の西北部、カザフスタン国境に近い穀倉地帯にある。この論文は、そのイリ地方に住むウイグル族の伝統的民家の平面、立面、装飾等の特徴及び問題点などを明らかにしたものである。

2. イリ地方の文化・気候の概要

ウイグル族 (トルコ系民族) の祖先は、紀元前 300 年以前から、バイカル湖以南、モンゴル高原、イリ川、バルハシ湖の間を遊牧していた⁽¹⁾。しかし紀元前 2 世紀後半以降、2000 年以上にわたって、激しい民族興亡の歴史に巻き込まれていった。ウイグル族が建国した最初の国家は、高車王国 (5 世紀後半) といわれる遊牧国家であるが⁽²⁾、領土を最大に広げたのはウイグル・ハン (744 年) で、バイカル湖以西、天山以北、内モンゴル、興安嶺以西に及んだ。しかし帝国は 840 年滅亡し、部族は四散した。このうちの一派は敦煌・張掖で「甘沙州ウイグル国」を建て、別の一派は「西ウイグル国」を、また別の一派は「カラハン朝」を建て、後に、カシュガルに副都を造った⁽³⁾。その後 13 世紀初め、この地はモンゴル帝国に属し、帝国分裂後はオイラト族や清に支配された。特に清は中国東北部からシボ族、ダフル族などを移住させ⁽⁴⁾、ロシアも 1871 年に軍を派遣してイリ地方を占領し、ウルムチ、グルジャ、タルバガタイなどに領事館を設置した。そのためロシア人移民、商人が大量に入り、以後、イリ地方はロシア文化の強い影響を受けることとなった。1911 年、清は滅亡した。これ以降、この地は各軍閥が割拠していたが、1949 年、中華人民共和国が設立され、1955 年、中国 2 番目の自治区になった。

このように、この地はさまざまな文化、宗教 (仏教、キリスト教、イスラム教)、言語をもつ人々が行き交う民族混交の坩堝、いわゆる「民族博物館」であったが、文化的にはイスラム文化と共にロシア文化がイリ地方一帯の生活風習や建築様式に大きな影響を与えている。

現在、イリ地区の面積は 5.6 平方キロ、人口は約 252 万である。ここにある著名な都市伊寧

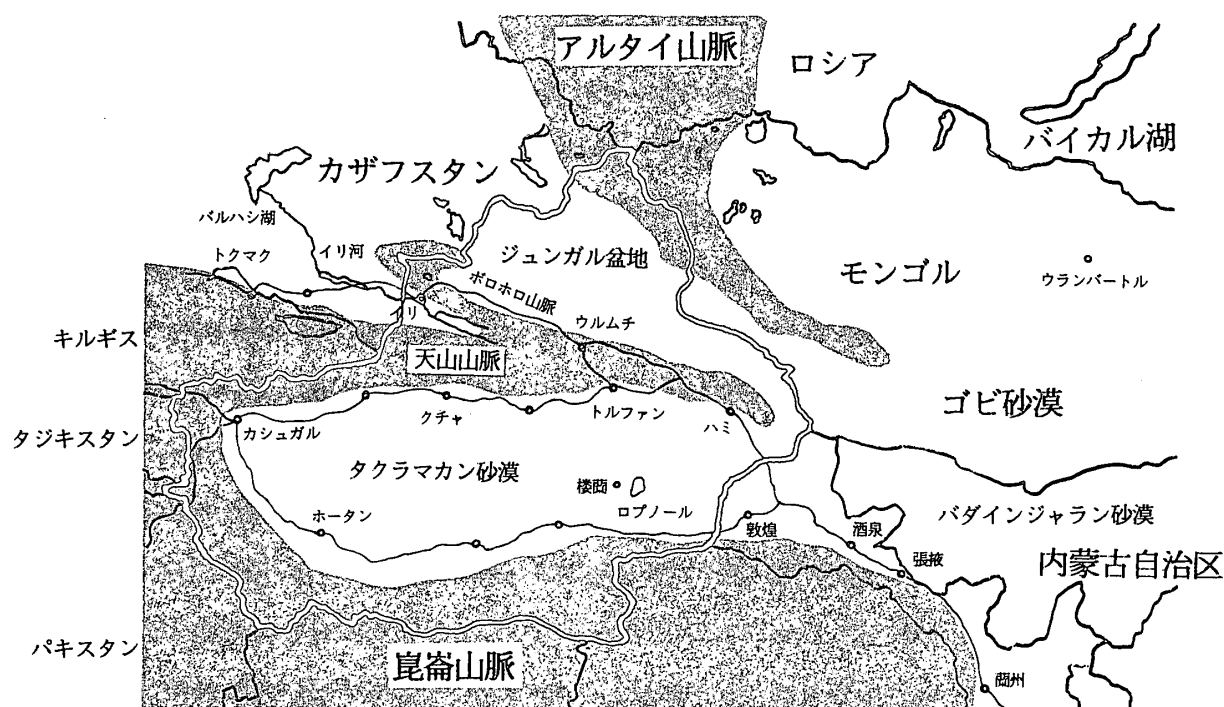


図1：長安から始まったシルクロードは、敦煌に来て北路，中路，南路という3つの支線に分かれる。北路は伊吾（現在のコムール，中国語で哈密），蒲類海（現在のバルコーリ湖），ウルムチを経由して，北流水（現在のイリ川）を渡り，更に西へとアラール海，カスピ海を経て，ローマに至る。

(Kuldja—Ghulja) は、中国新疆ウイグル自治区のイリカザーフ（伊犁哈萨克）自治州の主都である。ウイグル族（約60万で24%），漢族（約102万で41%），カザフ族（約50万で20%），回族（約25万で10%），キルギス族（約1.5万で0.6%），モンゴル族（約3万で1.2%），シボ族（約3万で1.2%），オロス族（ロシア人），タジク族，ウズベク族，タタル族，満族，ダウール族等，40種類以上の民族が一緒に生活している。

気候的には、緯度は札幌とほぼ同じ43°57'であるが、気温と降水量が異なる（表-1を参照）。植生は草原地帯であるが、遠くには針葉樹の山岳が望まれ、ゆったりと草を食む羊や馬の群れが見られる。シルクロードといえば、砂漠に行く駱駝の行列、緑のオアシスに茂るポプラの並木といった風景が思い浮かぶが、ここにはスイスアルプスとモンゴルの大草原を合わせたような素晴

表-1 伊寧市と札幌市の気候比較⁽⁶⁾

	都市名	月別平均値												年最高値	年最低値
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
気温 ℃	伊寧市	-6.9	-6.9	1.4	12.0	17.1	20.1	23.9	21.8	18.6	9.1	0.7	-4.7	40.2	-43.2
	札幌市	-4.1	-3.5	0.1	6.7	12.1	16.3	20.5	22.0	17.6	11.3	4.6	-4.1	36.2	-23.9
降水量 mm	伊寧市	20.2	23.6	11.6	40.7	38.4	31.6	23.8	24.7	18.7	45.1	22.6	21.9	-	-
	札幌市	110.7	95.7	80.1	60.9	55.1	51.4	67.2	137.3	137.6	124.1	102.7	104.8	-	-

らしい風景が広がっている⁽⁶⁾。

3. イリの民家

3.1 民家の構成要素

ウイグル族の民家は次のような要素から成る（図2参照）。1. ミッヒマンハナ（客室），2. ヤズリック・ヤタクオイ（夏の寝室），3. キシリック・ヤタクオイ（冬の寝室），4. アシハナ（台所），5. ピシャイワン（外廊下）及びスウパ（露台），6. チャイハナ（夏だけ使う台所），7. カズナック（またはアムバル，物置），8. ダルワザ（正門），9. オイラ（庭），10. エギーリ（畜舎），11. バラーン（ブドウ棚），12. アジッテハナ（トイレ），13. トヌル（ナンを焼く大型かまど），14. バグ（果樹園），15. ピシャイワン（外廊下）。

1. 客室（図2の1）

ウイグル族の人々は大変客好きなので，客室が最も重視される。冠婚葬祭などで来客が多い場合には，客室が二つあるのが望ましく，その場合は男の客室と女の客室に分ける。面積は食事や

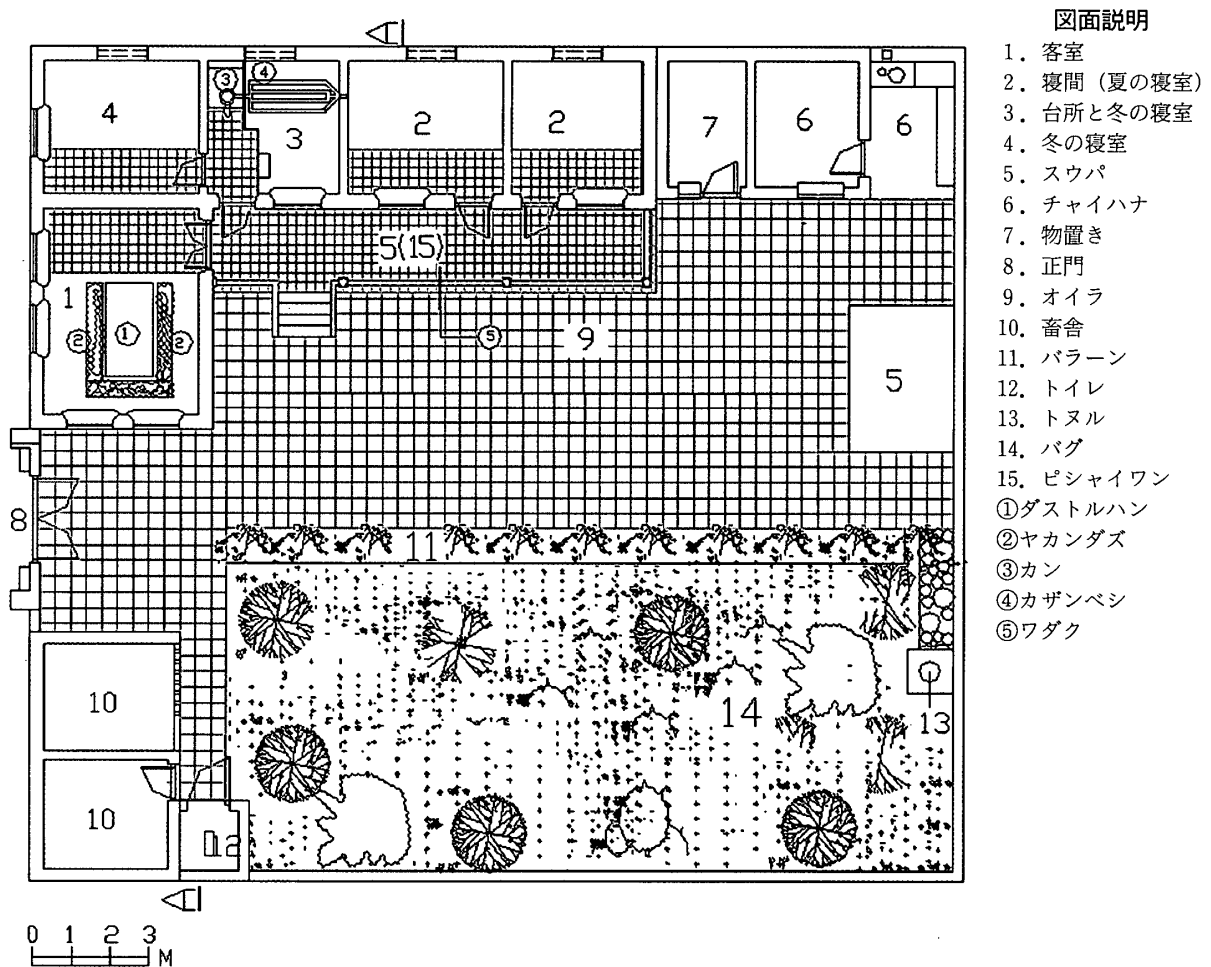


図2 イリの民家の一般的平面（建設年1920年代）⁽⁷⁾

お茶を運ぶための空間を要するため他の部屋より広く(6~9m×4~6m)、風通し・日当たり・周りの景色も良く、出入りが便利な処に設置される。室内のデザインも他の部屋より豪華である。来客を接待するときは、絨毯を敷いた床の上に、まずダストルハン(長さ1.5~3m×幅1.2~1.5mの刺繍したテーブルクロス)を中央に敷き、その周りに座布団に似た、幅が0.6mの長い敷き布団(ヤカングズ)を敷く。来客はヤカングズの上で胡坐をかき、ダストルハンを囲んで食事をする。

2. 寝室(図2の2, 3, 4)

寝室には夏部屋と冬部屋がある。夏部屋は5月から10月まで使用する部屋で、涼しい。冬部屋は、防寒のために前室やかまど、ストーブやカンがあり、台所の役目も果たす。なぜ夏部屋と冬部屋があるのか、その理由については明らかでないが、ウイグルの気候や歴史と深い関係があるかもしれない。すなわち気候的な理由としては、ウイグルは世界にも例がないほど夏と冬で極端な温度差があるので(年間最大80°C)、近代的な暖冷房設備のない時代には、季節によって部屋を使い分ける必要があったからではないかと思われる。また、ウイグル族はもともと遊牧民であって、9世紀から天山山脈を南下し、イラン系民族を同化しながら徐々に定着をはじめ、彼らから蔬菜、果樹、庭樹、花卉などの栽培技術を学び、ついに農耕民族に転身したのであって、この遊牧民であった時代の夏・冬の移動生活の習慣が、定住するようになって、住居内で繰り返されてきたのかもしれない。いずれにしても、ウイグル族は自然を愛し、季節の推移に合わせた生活を好む。

なお19世紀以降は、ロシア人の影響で、大きな煙突つきのペーチカを設置する家も多く、一部の人々は夏でもこの冬部屋を使用する。ただし炊事は外に設置してあるチャイハナ(夏の台所)を使う。現代ではカンの代わりにベッドを使用することも多い。カンの幅は2.5~4mである。イスラム教の教えでは足を西へ向けてはいけないので、この要素を考えに入れてカンの向きを決める。寝室の寸法は一般的に長さ5~7m×幅3.5~5mである(図2の2と3と4を参照)。ウイグル族は昔から、父母と子供、男女、年長者と若者、家族と外部の人との間のプライバシーを重視する。しかし、このような民家(図2)では、部屋の面積は広くても寝室の数が少なく、父母と子どもは同じ部屋で寝ることが多い。また、各部屋間の出入りによって個人のプライバシーも損なわれてしまう。そのため、現代の生活には合わないものになっている。

3. 台所(図2の3, 6)

ウイグル族は台所を夏用と冬用に分ける。夏用をチャイハナと呼び、室外に設置する(図2の6)。ウイグル族は礼儀上炊事する場所を来客に見せない。また、油煙などが客室まで漂ってこないようにするため、寝室や客室から離れた場所に設置する。5月から10月までの来客がないときは、家族が食事する場所としても使う。しかし、このような配置では、寝室や客室から遠いので、

日常生活には不便である。

10月から5月までは、室内の台所を使う。台所がある部屋にはカンがあるので、寝室として使うこともできる(図2の3を参照)。しかし、炊事の騒音や、匂い、蒸気、油煙、石炭の灰、ゴミなどで、住居環境は悪い。

4. ダルワザ (図2の8)

イリのウイグル族は、ほとんど自分のコラジャイ(家屋敷)を持っている。敷地はコラタム(塀)あるいはチット(枯れた枝で作った塀)で囲われている。ウイグル族にとって庭は単に眺めるだけでなく、重要な生活空間の一部となっている。そのため塀で外部から隔離するのである。塀の高さは1.5~1.8mで、その間に正門を設置する。正門(ウイグル語でダルワザ)はウイグルの民家にとって非常に重要な部分で、屋敷の顔である。そのため、いろいろな手法で模様や彫刻が施され、できるだけ大きく豪華に造られる。

ダルワザの形は地方によってさまざまで、図3(A)は農村の民家でよく見られる例、図3(B)は市街地(バザール)の民家の例である。

5. 畜舎 (図2の10)

イリ地方は水や草が豊かで土地も広いので、家畜を飼う条件が整っている。それに、イリのウイグル族は乳製品が好きで、自分で牛やヤギを飼って、乳を搾り、バターやチーズを作る習慣が

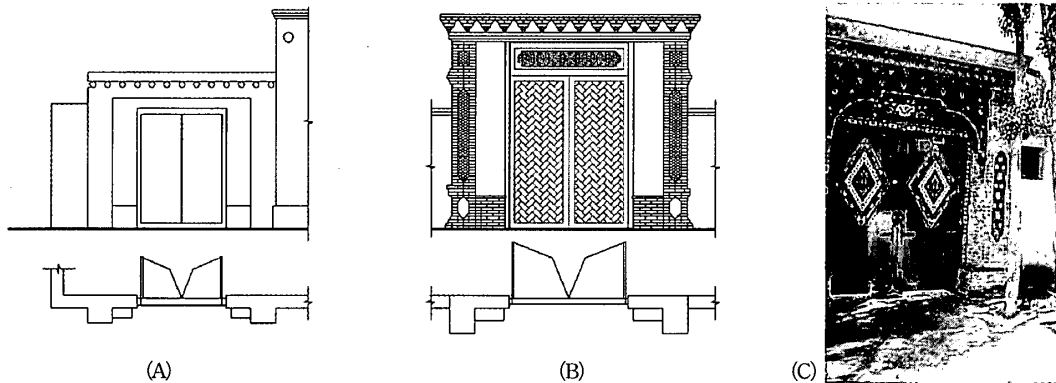


図3 ダルワザ⁽⁸⁾

ある。特に、農村部では、交通手段としてロバや馬が必要であるため、牛、ヤギ、羊、ロバ、馬等を飼う。したがって、畜舎はイリのウイグル族にとって欠かせないものである。畜舎は衛生のために普通果樹園の裏側に設置する。条件が許せば、家畜を正門から出入りさせないため、小さな裏門が設けられることもある。

6. トイレ (図2の12)

昔のイリ地方のトイレは非常に粗末で、地面に穴を掘って板を2枚渡しただけのもので、屋根はなく、壁は木の枝や葦で囲んだだけのものであった。もちろん現代では周りをレンガで囲み、普通の家と同じように屋根を作る。場所は、トイレの臭いが住居まで来ないように、果樹園の裏側、あるいは畜舎に近いところに設置する。なおイスラム教の教義では、用を済ますときに西に向かってはいけないので、この要素も考えてトイレを設置する。ただし、このような住居外のトイレは、冬の生活にとっては非常に不便で健康上も好ましくない。

7. バグ (図2の14)

イリ地方はほかの地方に比べて降水量が多く、緑が豊かである。土地が肥沃で、農産物の栽培、特に果樹栽培に適している。それゆえ昔、イリ地方はアルマリク (リンゴ園の意味) と呼ばれていた。

イリのウイグル族は、夏の自然の素晴らしさを楽しむため、大部分の生活時間をピシャイワン (外回廊)、オイラ (庭)、バラーン (葡萄やホップなどの棚)、バグ (果樹園)



図4 バラーンとピシャイワン⁽⁹⁾

などで過ごす。そして、いろいろな草花を植えて庭を装飾し、バラーンの下で自然の美しい風景を眺めながら食事をする。また、野菜やりんご、ブドウ、桃などを栽培し、自給自足の生活をす (余った野菜や果物はバザールで売り、生活費用に当てる)。そのほか、ウイグル族は音楽や歌、踊りが好きで、休日や祭りのとき、親戚やお客さん呼び、バグの中でダストルハンを敷き、お茶を飲み、食事をしながら伝統的な楽器 (ドタール、テンブルなど) を演奏し、そのリズムに合わせて踊る。こうした生活がイリのウイグル族にとっては最も幸福で理想的な生活である。その意味で、イリの民家にとってバグは欠かせないものなのである。

なお家を建てる場合には、1年から3年前に外塀を作り、果樹を植える。そして果樹に実がなり、涼しい影を落とすようになってから、住居の建設に取り掛かる。ウイグル族にとっては、住

居とバグが一体となってはじめて、住むに値する生活空間となるのである。

8. トヌル（図2の13）

ナンを焼く大型「カマド」のことである。ナンはウイグル族の主食として毎日欠かせない。そのため、家族ごとに、自分のトヌルを持っている。トヌルを作る材料は、アルカリ性の塩を混ぜた粘土やレンガである。形はいろいろあるが、普通のトヌルは図5のような形になっている。

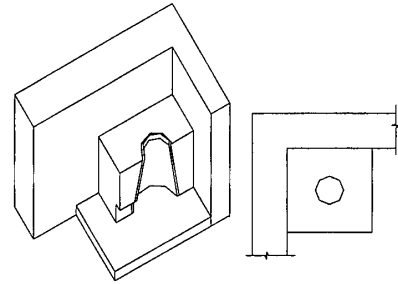


図5 トヌル⁽¹⁰⁾

9. ピシャイワン及びスウパ（図2の5，15）

ピシャイワン（外廊下）はウイグル族の民家の大きな特徴の一つである。ただし、貧しい家ではピシャイワンが無い家もあり、その場合には、代わりにバラーン（葡萄棚など）を作る。普通の家では玄関先や客室の入り口に簡単なポーチのようなもの、あるいは住居の前面にピシャイワンを造る。金持ちは住居の三面にピシャイワンを造る。

イリ地方は典型的な大陸性気候であるため、夏は日光が非常に強く、影のある処とない所の温度差がとても大きい。ピシャイワンの落とした影は屋内とスウパの上に涼しい空間を生み出し、快適なオイラ生活を送ることができる。

なお最近のイリの民家では、保温，雨，雪，灰を防ぐためにピシャイワンにガラスを入れて作ることもある。新しいピシャイワンの在り方として望ましい例である（図6のA）。

ピシャイワンには伝統的な装飾手法で彫刻が施されており、地方や民族の特徴がよく現われている。彫刻された模様は人々の好みによって違うが、イスラム教の教えでは人間や動物を崇拝し



(A)



(B)

図6 ピシャイワン⁽¹¹⁾

ないので、模様は草や花、幾何学模様、山や川などの自然風景に限られる。色は鮮やかな青色、緑色を主色として、いろいろな色が豊かに組み合わせられている。ただし近代には、ロシアやヨーロッパ諸国の影響で、彫刻の模様は簡単な模様に変化し、彫刻の代わりに手書きの絵を描く例も増えてきた。色も薄くなって来た(図6のB)。ウイグルの伝統的なデザインや技術がしだいに変化しつつある例である。

3.2 平面の形式

ウイグル族にとって庭は重要な生活空間である。そのため各部屋必ず庭に面し、どの部屋からも庭を眺めることができるようになっている。つまり庭に対して開放的な配置がウイグルの民家の大きな特徴である。

平面形式はいろいろあるが、以下のように「一字形」、「L字形」、「H字形」に分けることができる。

1. 「一字形」平面

貧しい人々の民家、特に農村の民家は大体、一字形平面になっている(図7)。図7に示した平面は、イリの伝統的な民家の原型とも言える平面で、ほとんどの民家はこの様な形式から発展してきたものである。

一字形平面の民家では、一般にはピシャイワンの代わりにバラーンが造られている。葡萄や瓢箪、カボチャ(南瓜)などから作られたバラーンは、夏の蒸し暑い季節に涼しい室外空間を提供してくれる。しかし、一字形平面の民家は、部屋から部屋へ移動する場合、別の部屋を通過しなければならないという欠点があり、プライバシーに関して難がある。そのため、部屋数

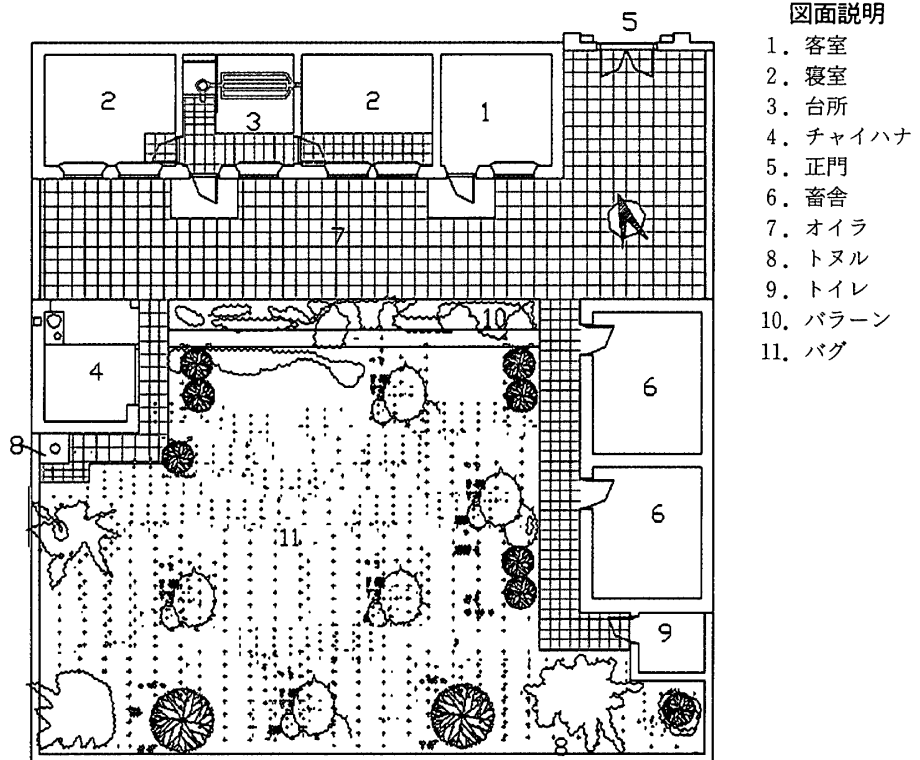
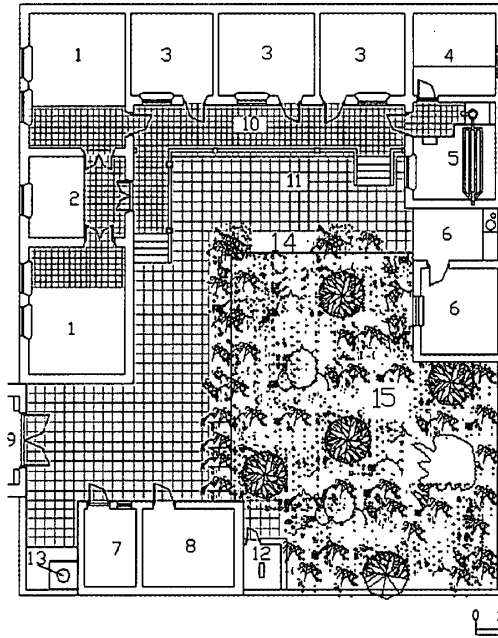


図7 一字形平面⁽¹²⁾ 建設1960年代

が多くなり、生活が豊かになってきた人たちは、住居の前面にピシャイワン（外廊下）を増築する。

2. 「L字形」平面と「n字形」平面

ウイグル族の民家では部屋を一例に配置するのが原則である。ただし部屋数が多い場合、または敷地が狭い場合には、「L型」または「n型」に折れ曲げる。そうすることによって、半ば囲まれた庭ができ、プライバシーのある庭、庭と一体となった空間を造ることができる。ウイグル族の人々にとっては、このような住居が理想的な住居である（図8）。

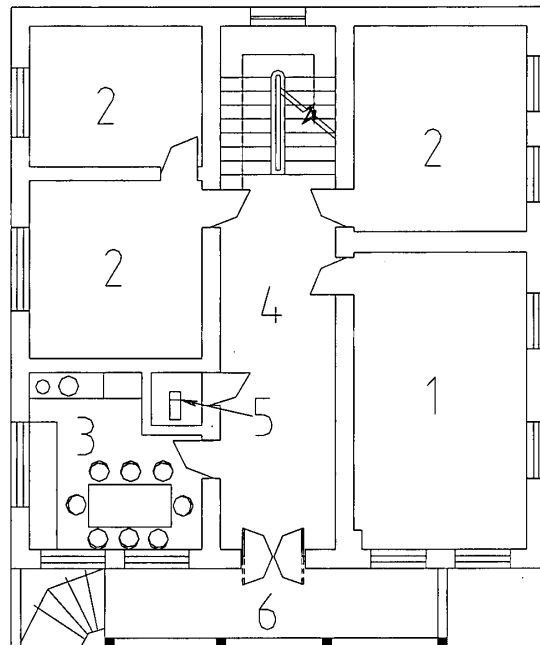


- 図面説明
1. 客室
 2. ホール
 3. 寝室
 4. 冬の寝室
 5. 台所
 6. チャイハナ
 7. 物置
 8. 畜舎
 9. 正門
 10. スウバ
 11. オイラ
 12. トイレ
 13. トヌル
 14. パラーン
 15. バグ

図8 n字形平面⁽¹³⁾ 建設1960年代

3. 近代のロシア式建築の影響を受けた平面

イリ地方のウイグル族の民家には、ロシア式建築の影響を受けたものが多い。それらは図9のように、ホールを中心とした集中式平面になっていて、すべての部屋が庭に面するウイグル族の伝統的な民家とは大きく異なる。しかし、防寒的でプライバシーもあるので、近代以降はこうした住居が多くなっている。ただ、ピシャイワンに関して言えば、各部屋とのつながりが切れているので、魅力には乏しい。



- 図面説明
1. 客室
 2. 寝室
 3. 台所・食堂
 4. ホール
 5. トイレ
 6. ピシャイワン

図9 ロシア式建築の影響を受けた民家の平面⁽¹⁴⁾ 建設1990年代

3.3 民家の向き

イリ地方の冬は寒く、北西の風が強い。そのため、北または北西面の壁には開口部を設けない。開口部はもっぱら庭園側の南または南東面にのみ設ける。そうすることによって夏は西陽を避けることもできる。その他、イスラム教の決まりでは毎日5回西に向かって礼拝することになっているが、他の人が礼拝する人の前を通ると、礼拝する人は集中力を失い、礼拝は壊される。また、動物が前を通ると、動物崇拝禁止という掟が破られる。このため西側には人や動物が通る庭や門を設けないようにしている。

3.4 民家の床高

イリ地区は湿度が冬では札幌より高い(表2を参照)。また地下水位も高いので(伊寧市: 2m~5m)、湿気を防ぐため、地面より0.4m~0.9mの高い基壇を作り、その上に住居を建てている。場合によっては地下室を設け、一階の床を地面より0.9m~1.5m高くすることもある。また、通風をよくするため、前側の窓を大きくし、後方の壁の高い位置に小さな窓を設置している。天井高も2.9m~3.5mと、やや高めで、熱気を高窓から排出するようにしている。

4. 立面の意匠

4.1 屋根

天山北部から南部かけては半乾燥地帯に属するが、温帯地区にある農産物はほとんど栽培可能である。また、日照が長く、寒暖差が激しいため、いろいろな美味しい果物がとれる。有名なも

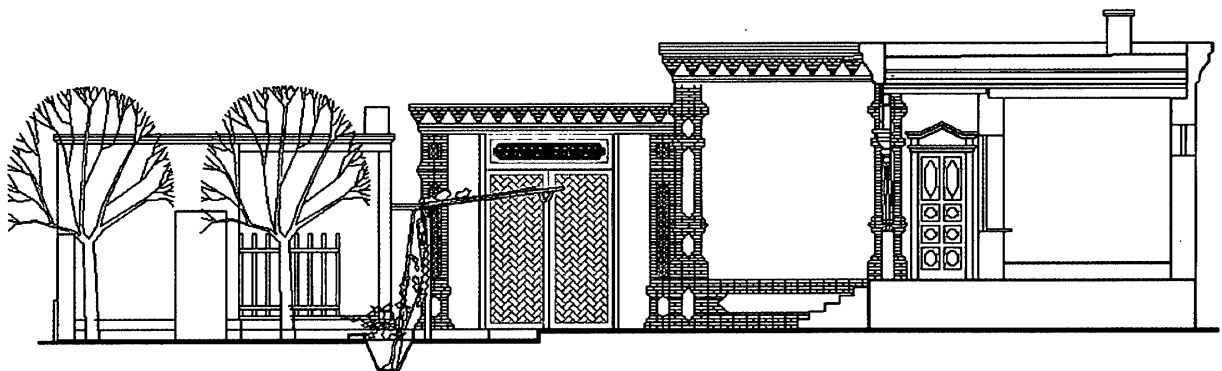


図10 L字形平面のA-A断面図⁽⁷⁾

表-2 相対湿度⁽¹⁵⁾

湿度 月 都市名	相対湿度%											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
伊寧	76	75	61	54	56	56	57	55	57	69	77	80
札幌	71	70	67	63	67	74	77	77	73	69	67	70



図 11 L字形平面の南立面図⁽⁷⁾

のとしては、葡萄、梨、杏、棗、桃、りんご、メロン、西瓜などがある。ウイグル族はドライフルーツを作る習慣があり、それらのフルーツや穀物、トマト、唐辛子などの野菜を屋根の上で干す。またウイグル族は蒸し暑い夏の夜には屋根の上で寝る習慣がある。このためもあって民家の屋根は水平屋根になっている。

しかし、イリ地区は雪や雨が比較的多いので、屋根の傾斜は他の地域より強い。なお雪溶け水や雨が他人の庭に流れると失礼に当るので、伝統的な民家では自分の庭に向かった片流れ屋根となっている。

ところで、屋根の表面は藁を混ぜた泥で塗られているため、雨水が容易に浸透し、天井漏れがよく発生する。そのため、最近では、ロシア式建築のように、トタン板を使った傾斜屋根が増えてきている。この方が防水的には合理的であるが、屋根の上を利用することができない点では問題もある。

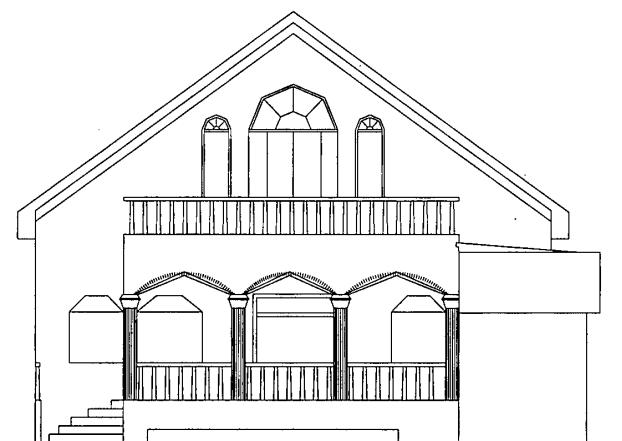


図 12 ロシア式建築の影響を受けた住居南立面図⁽¹⁴⁾



図 13 ロシア式建築影響を受けた住居の立面⁽¹⁶⁾

4.2 カリタ・ピシャイワン

カリタ・ピシャイワンとは、ピシャイワンの柱と梁との接合部の上部や、壁と梁の接合部の上部を指す。すなわち、軒の上部を指し、断面は図 10 に示すように屋根面より 20 cm ほど立ち上っている。雪溶け水や雨水を集め、排水するためであるが、同時に、民家の外観を立派に見せるためにレンガを積んだりして、さまざまな模様を作り出している。一般的なカリタ・ピシャイワン

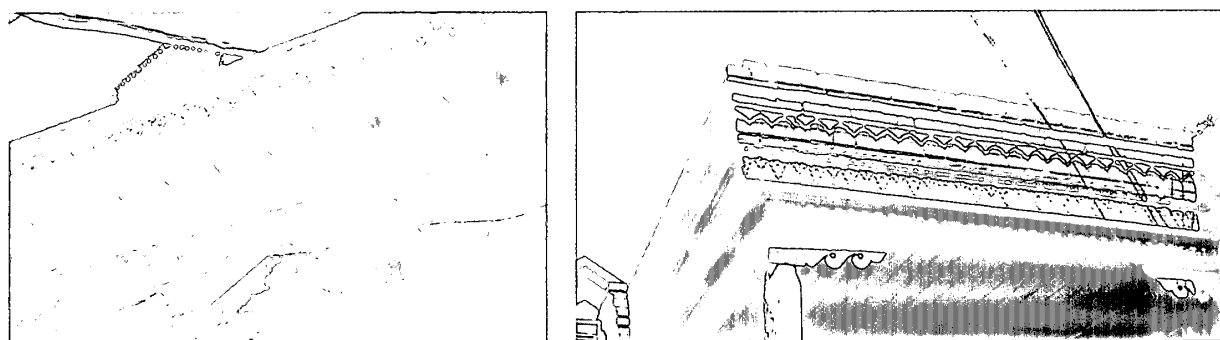


図14 カリタ・ピシャイワン (軒飾り)⁽¹⁷⁾

は、図14のような形である。

4.3 ピシャイワン

ピシャイワンは、スウパ (オンドルに似ているが、夏用であるから、火を焚く構造になっていない)、柱、ワダク (手摺り)、アーチから構成されている。

a) 柱

柱の材料は木である。柱脚、柱身、柱頭には草や花、幾何学模様の彫刻が施される。しかし、最近では直接絵を描き、あるいは模様にした板を貼って装飾する簡易なやり方が多くなっている。なお、ウイグル族の伝統的なデザインにロシアやヨーロッパ式の要素を取り入れた柱頭もある。図15の(A)はウイグル族の民家でよく使われる柱の形である。図15の(B)はイリのウイグル族の民家で見られる柱形で、ヨーロッパ式の柱頭となっているのが注目される。

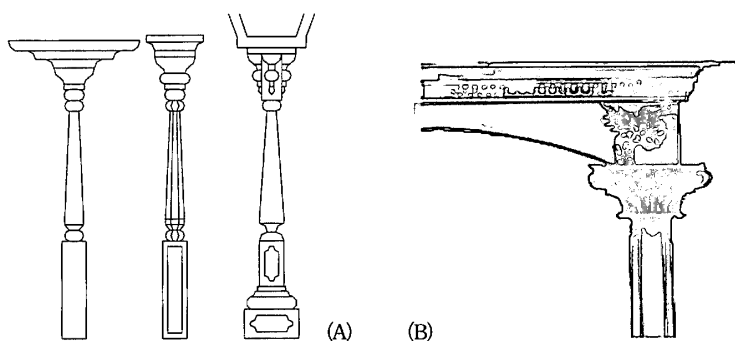


図15 柱⁽¹⁸⁾

b) ワダク (手摺)

イリの民家は床が高いので、安全のための柵として使われるが、屋根や正門、玄関などの装飾にも用いられる。ワダクは使う場所によって模様がさまざま、民家の外観を豊かに、かつ綺麗に装飾するものである (図16を参照)。

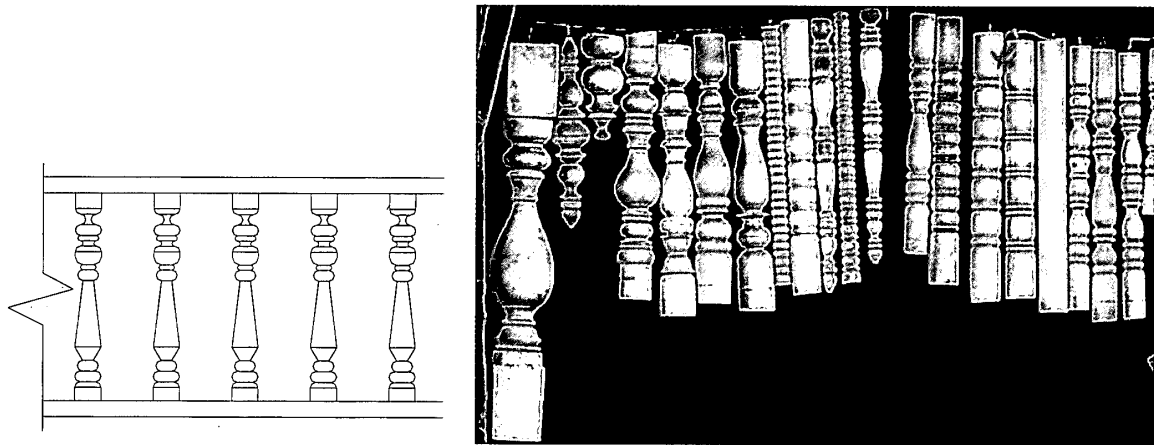


図16 ワダク⁽¹⁹⁾

c) アーチ

ウイグル族の民家では、イスラム建築の影響から、窓、玄関、外壁、ピシャイワン、室内の壁龕などに、さまざまな形のアーチを使う。

大体、半円アーチ、シャブトル（桃）形アーチ、二心アーチ、三心アーチが多いが、その中から2種あるいは3種を組み合わせた独特なものもある。一般的によく使用されるアーチは図17のような形をしているが、イリのウイグル族の民家では、半円アーチか、草花など植物の形を模したアーチがよく使われている（図6と11を参照）。



半円アーチ

シャブトル形アーチ

二心アーチ

組み合わせアーチ

図17 アーチ⁽²⁰⁾

4.4 窓と玄関の飾り

イリのウイグル族の民家では、窓や玄関の周りにレンガを積み、あるいは漆喰を塗り、独特な装飾を施す。またこの地の特徴として、ロシアの建築からの影響と思われるが、矩形と半円アーチを組み合わせた例もよく見られる（図6のA）。防寒や安全のために付けられる木戸（よろい戸）や各部屋の扉にも彫刻が施され、色は主に薄い青色を使う。ただしロシア建築の影響を受けた民家では薄い緑色も使用される（図18）。

4.5 壁と積み煉瓦柱

積み煉瓦柱と壁の飾りもイリの民家の特徴である。煉瓦を切り込んださまざまな形をした柱や壁が住居の表、角、部屋と部屋の連結部、ダルワザの両側、ピシャイワンに使われ、民家の表情を豊かにしている。しかし、貧しい人々の民家の壁は、小麦の藁を入れた泥で塗った上に石灰ク

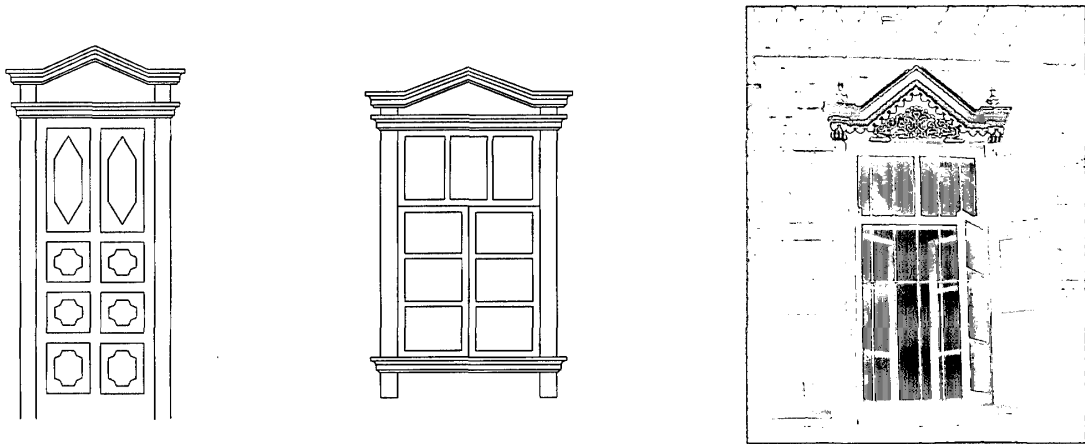


図18 窓と玄関の飾り⁽²¹⁾

リームを塗っただけの簡素なものである。

5. 室内の装飾

イリの民家の室内は一般に簡素であるが、普通の農家では薄い青色の顔料を混ぜた石灰で塗装し、清潔な印象を与えている。装飾としては主に天井と壁の飾りが重視される。

a) 飾り天井：イリの民家の天井の装飾は以下の4種に分けることができる。1) 漆喰天井：まず、梁の下部に木摺を釘付けして、その表面に漆喰を塗る。これはまた2種に分けられる。一つは、漆喰天井の四つ角に粘土で簡単な彫刻を施し、表面を石灰で塗ったもの。二つ目は、天井の表面に草花、幾何学模様を描いたものである。2) 板天井：梁の下部に直接板を釘付けし、絵や模様を描き、あるいはペンキ塗りをしたものである。3) 貧しい民家の場合、梁の上に約20cm間隔で横木を渡し、その上に蓆を敷いて、天井を作る。4) 近代では、各種の模様をプリントしたファイバーボードを使って天井を作ることが増えてきた。

b) 壁：普通、ウイグル族の習慣として、客室の壁には高級なタペストリーを掛けるが、イリのウイグル族の場合には、タペストリーの両角にトレーや高貴な客人のために用意した、刺繍を施した帯状の手拭を掛ける習慣がある(図19)。

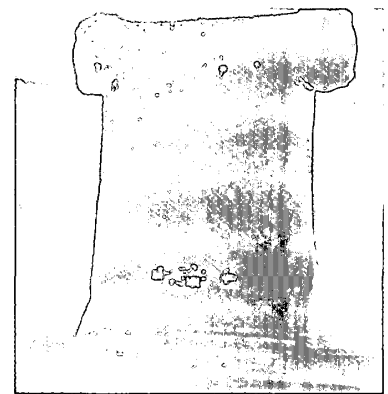


図19 壁掛け⁽²²⁾

6. 結

イリの民家は、美しい自然を享受することができるよう、庭に対して開放的に造られている。特に、ピシャイワンから庭にかけての空間は、非常に快適で魅力的である。

しかし、六ヶ月に及ぶ長い冬を過ごすイリのウイグル族にとって、このような従来型の民家は、防寒その他の面で様々な問題を抱えている。近代にきて、ロシア式の閉鎖的な平面や、傾斜式の

イリ地方の伝統的なウイグル族の民家の特徴について（阿布力克木托合提，買買提力提甫，小野恭平）

屋根を取り入れるようになったのも、それが原因である。しかし、ロシア式の住居は防寒性や利便性、プライバシー等の面では優れていても、ウイグルの伝統的な住文化とは相入れない面がある。

これからは、イリの従来型の民家の長所を生かしながら、先進的な技術・新材料を用い、また近代的な生活に即した新しい民家の創造を図っていかねばならないだろう。

注 釈

- (1) 任一飛，雅森吾守爾著『ウイグル族』，民族出版社，1997年，5頁。
- (2) 間野英二著『中央アジアの歴史』，講談社，1993年，24頁～25頁。
- (3) ウイグル族簡史編写組『ウイグル族簡史』，新疆人民出版社，74頁～75頁。
- (4) 権藤与志夫編著『ウイグル—その人々と文化』，朝日選書，1991年，33頁。
- (5) 田中雅文編「天馬の故郷 シルクロード天馬北路の旅」ホームページを参照。
<http://www.mmjp.or.jp/freedom/vol4.html>。
- (6) 国立天文台編，『理科年表』，2005年，第78冊丸善株式会社発行，謝光輝編『新疆ガイドブック』，香港中国旅游出版社，2000年7月発行，天气在线：<http://www.t7online.com/cncnruet.htm>。
- (7) 新疆大学建築工程学院建築系 阿布力克木托合提と阿里木江馬克蘇提が現地調査し，阿布力克木托合提が作図。
- (8) 新疆大学建築工程学院建築系 阿布力克木托合提と阿里木江馬克蘇提が現地調査し，図面と写真は阿里木江馬克蘇提が提供。
- (9) 新疆大学建築工程学院建築系 茹克亜が提供。
- (10) 注(8)に同じ。
- (11) 新疆大学建築工程学院建築系 賽爾江が提供。
- (12) 新疆大学建築工程学院建築系 阿里木江馬克蘇提が作図。
- (13) 注(7)に同じ。
- (14) 新疆大学建築工程学院建築系建築学961班の学生が提供。
- (15) 注(6)に同じ。
- (16) 注(9)に同じ。
- (17) 新疆大学建築工程学院建築系 阿布力克木托合提と阿里木江馬克蘇提が現地調査し，写真は阿里木江馬克蘇提が提供。
- (18) 新疆大学建築工程学院建築系 阿布力克木托合提と阿里木江馬克蘇提が現地調査し，図(A)は阿里木江馬克蘇提が提供，図(B)は阿布力克木托合提が作図。
- (19) 新疆大学建築工程学院建築系 阿布力克木托合提。
- (20) 阿里木江馬克蘇提「ホータン住居建築について」，日本建築学会北海道支部研究報告集No.76，2003年6月から引用。
- (21) 新疆大学建築工程学院建築系 阿布力克木托合提と阿里木江馬克蘇提が現地調査し，阿布力克木托合提が作図，写真は阿里木江馬克蘇提が提供。
- (22) 中国建築技術発展中心建築歴史研究所編『新疆ウイグル建築装飾』，新疆人民出版社，1985年9月から引用。

参考文献

- (1) 任一飛，雅森吾守爾編『ウイグル族』，民族出版社，1997年。

- (2) 権藤与志夫編著『ウイグル——その人々と文化』, 朝日選書, 1991年。
- (3) 前嶋信次, 加藤九祚編『シルクロード事典』, 芙蓉書房出版, 1993年3月。
- (4) 阿里木江馬克蘇提「ホータン住居建築について」, 日本建築学会北海道支部研究報告集 No.76, 2003年6月。